

安心・安全な鶴ヶ島

昨年は、1923年（大正12年）に発生した関東大震災から、100年目の節目の年でした。

11月、市では「第37回鶴ヶ島市防災訓練」、そして、議会では「防災・減災で、より安心・安全のまちづくり」をテーマに「市民と議員の懇談会2023」を開催しました。

そして、令和5年12月7日に、住民福祉の向上という市政の大きな目的がある中、「安心・安全な鶴ヶ島」について、市長と議長が意見交換しました。その一部を紹介します。

災害対策

●防災と減災

―はじめに、11月の防災訓練の様子から―

市長 寒かったです。（笑）しかし、寒さを体感することも大きな成果でした。今後も、気候に対応した災害

対策が必要になると考えています。

議長 市議会でも議会業務継続計画（BCP）に基づき、参加させていただきました。今回得たことを、今後の災害時における行動の指針として活かしていきたいと思っています。

―防災訓練は800人の参加。市民と議員の懇談会も50人を超える参加があった―

議長 市民の皆さんから災害への関心の高さを感じました。もっと公助をと要望していた方も複数いました。

市長 自主防災組織について言えば、自治会活動でも、役員が変わると途切れてし

まうこともありませんが、自主防災組織はメンバーの交代が比較的緩やかなため、より有効です。いざという

とき、地域での活動は、市から依頼をしてもできないことがあります。地域の方々が自主的に行うことが欠かせません。

議長 地域活動の担い手が要になるということでしょうか。

市長 災害発生時は、まず助け合わなければなりません。そのためには、隣近所の普段の付き合いが大切であると感じます。市民の皆さんには、まずはぜひ自治会に入って、地域で自助・共助の形を作って欲しいと思います。

●気候危機と

ゼロカーボン

―市民の視点は、防災組織と、気候変動対応からの減災でした―

議長 ゲリラ豪雨や気候危機、ゼロカーボンシティといった環境から災害を考察して減災をというご意見がありました。

市長 2050年にゼロカーボンを達成するためには、今現在の状況では、計画の半分しか達成できないと思います。

議長 「第3期鶴ヶ島市環境基本計画」も話題になりました。計画には、温暖化や気候危機対策も盛り込ま

れています。

市長 今後、公園を作って木を増やしたいと思います。12月には、若葉駅西口に「わかばハンカチノキ公園」が完成しました。

議長 樹木は11年から40年までの若い木が二酸化炭素をよく吸収するそうです。植樹はゼロカーボンの考え方ですね。

市長 今後の科学の進歩と市と市民の皆さんの少しずつの努力を合わせれば、達成できるかもしれないという期待はあります。

議長 「グリーン購入[※]」についても、市でリーダーシップをとって進めていた



齊藤市長